



令和2(2020)年度秋学期始業式式辞

神戸大学附属中等教育学校長 井上真理

本日より秋学期が始まります。

いまだに新型コロナウイルス感染症はおさまらず、感染防止対策としての様々な規制、課外活動の制約など、不自由な日々は相変わらず続いています。

このような中で、先週は10月6日から9日にかけてノーベル賞受賞者の発表がありました。ノーベル物理学賞は、ブラックホールの存在を証明・研究した3人、化学賞はゲノム編集技術の開発を行った女性2人、文学賞は米国の女性詩人、そして平和賞は飢餓の現場に食料を届ける「国連世界食糧計画」に授与されることになりました。

ノーベル賞の研究成果は、天才的な人が独自に優れたアイデアで生み出したと考えている人が多いと思います。しかし、必ずしもそういうわけではありません。幾人もの共同研究者やライバルたちと日々ディスカッションする中で、互いのアイデアを修正し、互いに高めていく中で研究成果に行き着くことが一般的です。つまり、時には何年にもわたり述べ何十人もの人と協同することで、ノーベル賞までたどり着くのです。

本校の校訓「自治・協同・創造」にも「協同」という言葉がありますね。

本校で、創設以来、探究的な学習をKobeプロジェクト、KPとして、6年一貫カリキュラムの中心的な柱として取り組んでおりますように、皆さんは、協同の習慣を日々、身に着けています。

この8月に「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」がオンライン開催され、222校が参加する中、本校の研究発表が文部科学大臣賞を受賞し、同時に生徒投票賞も受賞しました。これは、もちろん代表生徒のがんばりによるものですが、先生方の指導とともに、みなさんが切磋琢磨して取り組んできたKPの成果であります。



神戸大学附属の先輩には、江崎玲於奈先生、野依良治先生というお2人のノーベル賞受賞者がおられます。将来、皆さんの中からもノーベル賞を受賞する人が出るかもしれません。ノーベル賞とはいわなくても、「協同」の習慣は、世の中の様々な分野で社会に貢献する原動力になるのです。

前回の全校集会でもお話しましたが、ストレスで免疫が落ちることがあります。今の世の中でストレスなしで生活することは難しいですが、しっかりと栄養を取って良い睡眠をとって、笑顔でいることは、病から身を守るために大事なことです。朝晩、随分涼しくなり、寒い日もあります。体調管理をして、秋学期を過ごしましょう。